

子ども・子育て支援事業計画策定に向けた 利用ニーズ把握のための調査結果 (結果速報)

—平成25年度—

■調査の目的

子ども・子育て支援給付や地域子ども・子育て支援事業の提供体制の確保等を行うための計画である「鹿児島市子ども・子育て支援事業計画」の策定に向け、市民の子育てに関するニーズを把握し、計画づくりの基礎資料とするため実施した。

■調査区域

鹿児島市全域

■調査対象

小学校就学前児童の保護者 : 4,000人
小学校児童の保護者 : 1,000人
母子手帳交付者(第一子のみ) : 133人

■調査期間

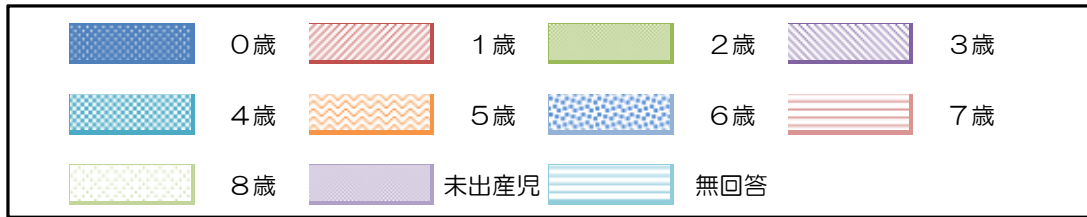
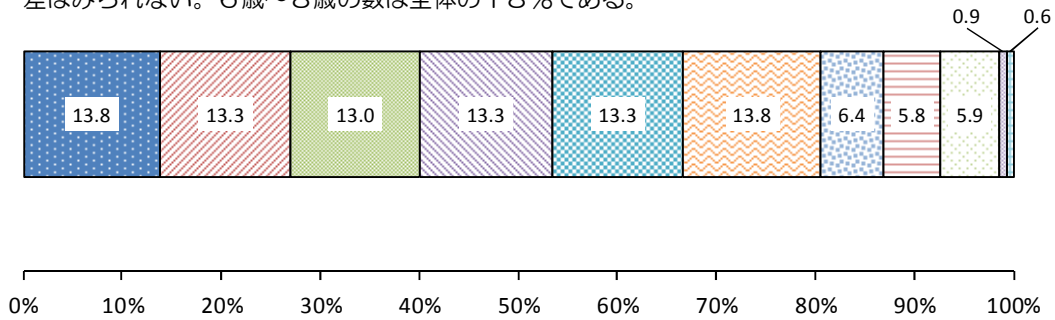
平成25年9月13日から9月30日まで

■回収結果

対象者	配付数	回答数	回答率
① 小学校就学前児童の保護者	4,000人	2,682人	53.6%
② 小学校児童の保護者	1,000人		
③ 母子手帳交付者(第一子のみ)	133人	23人	17.3%
合計	5,133人	2,705人	52.7%

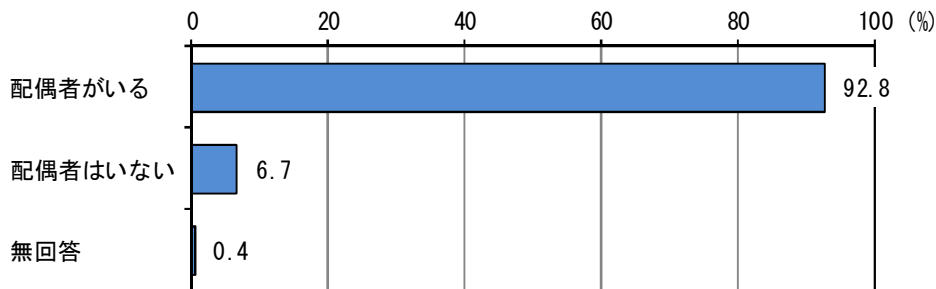
子どもの年齢について

0歳～5歳までの数が全体の80.5%を占めており、かつそれぞれの数が13%台であり、差はみられない。6歳～8歳は全体の18%である。



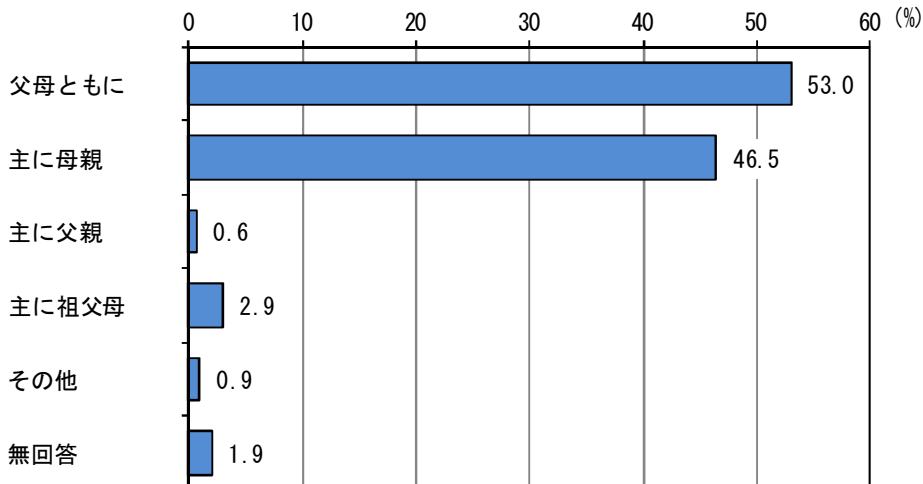
配偶者の有無について

「配偶者がいる」が92.8%であり、「配偶者はいない」は6.7%である。



子どもの子育てを主に行っている人について（複数回答）

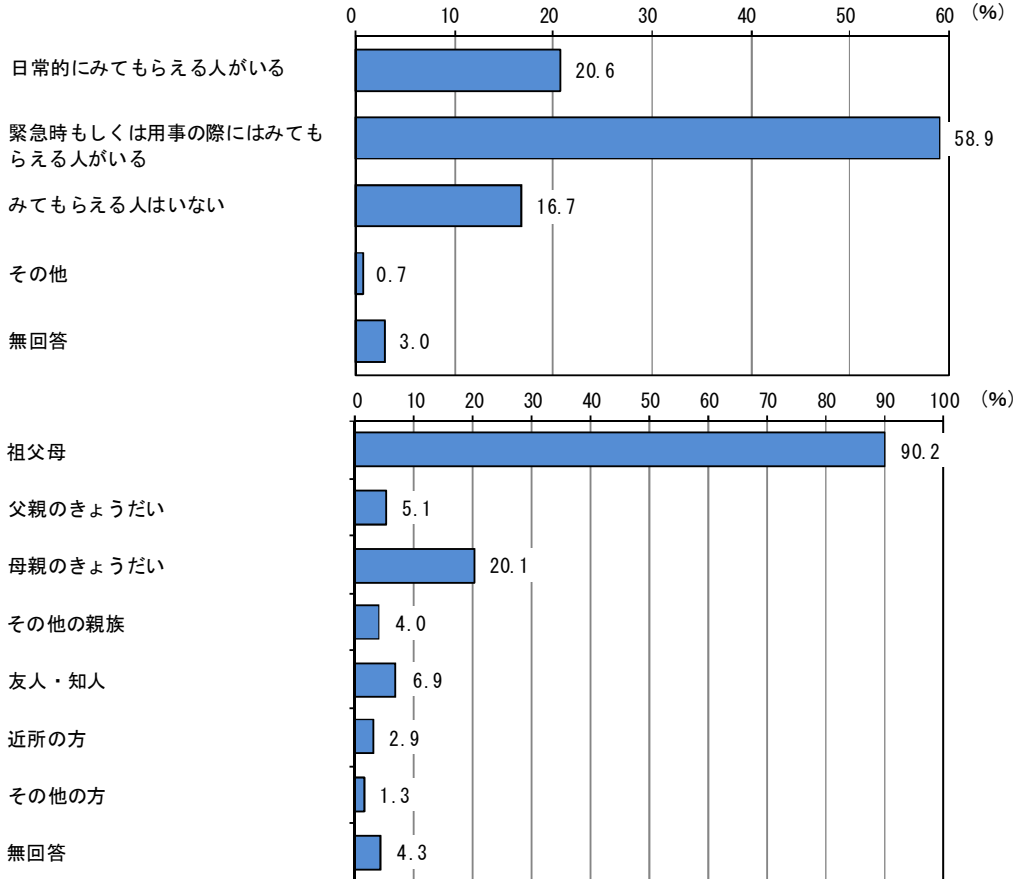
「父母ともに」行っているが53%と最も高く、次いで「主に母親」が46.5%である。



子どもをみてもらえる親族・知人について

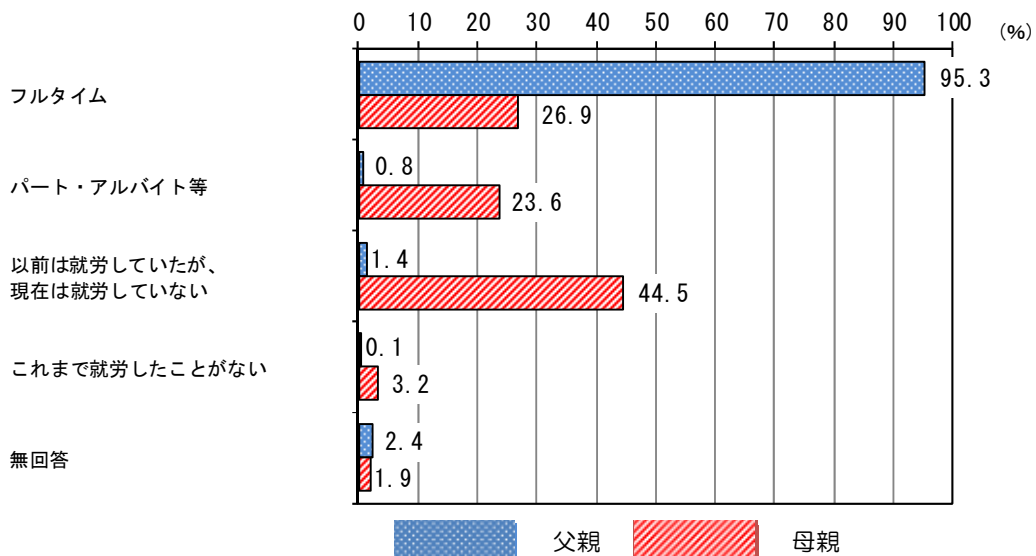
「緊急時もしくは用事の際にはみてもらえる人がいる」が58.9%と最も高く、次いで「日常的にみてもらえる人がいる」が20.6%、「みてもらえる人はいない」が16.7%であり、日常的にみてもらえる状況は少ない。

預かってもらえる続柄では、「祖父母」が90.2%と最も高く、次いで「母親のきょうだい」は20.1%と、親族にみてもらう割合が高い状況である。



父親・母親の現在の就労状況について

父親は「フルタイム」が95.3%と最も高く、母親は「以前は就労していたが、現在は就労していない」が44.5%が最も高くなっている。

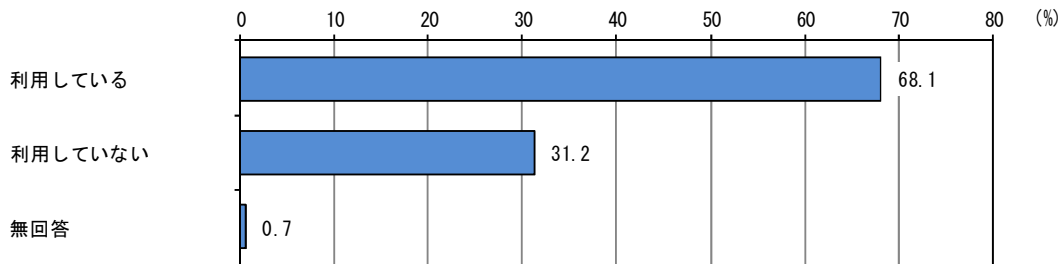


子どもの定期的な教育・保育の事業の利用について

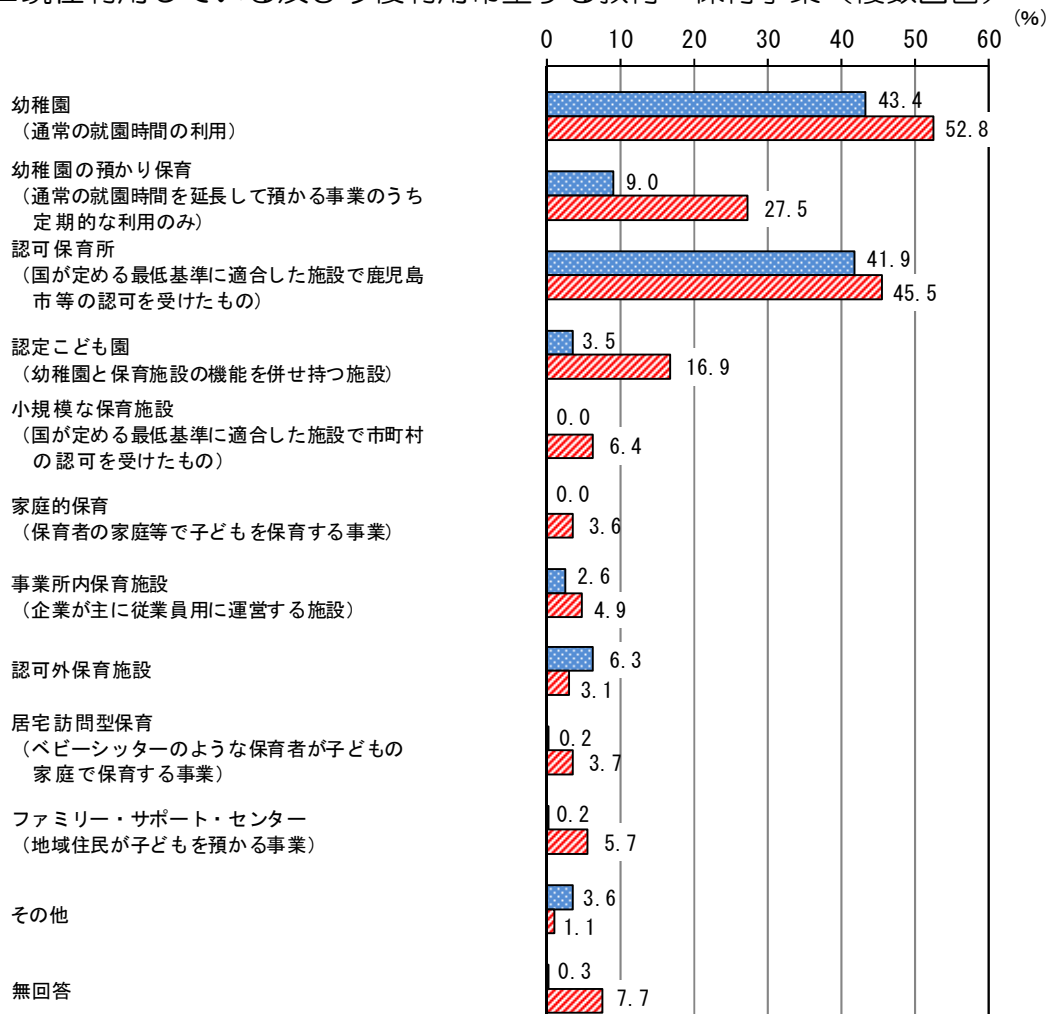
定期的な教育・保育の事業を「利用している」が68.1%で、「利用していない」は31.2%である。

現在利用している教育・保育事業では、「幼稚園（通常の就園時間の利用）」が43.4%と最も高く、次いで「認可保育所（国が定める最低基準に適合した施設で鹿児島市等の認可を受けたもの）」が41.9%である。

今後利用希望する教育・保育事業では、「幼稚園（通常の就園時間の利用）」が52.8%と最も高く、次いで「認可保育所（国が定める最低基準に適合した施設で鹿児島市等の認可を受けたもの）」が45.5%である。



■現在利用している及び今後利用希望する教育・保育事業（複数回答）

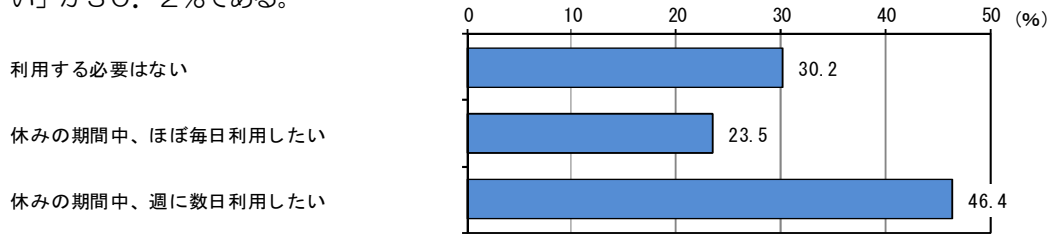


現在利用している教育・保育事業

 今後利用希望する教育・保育事業

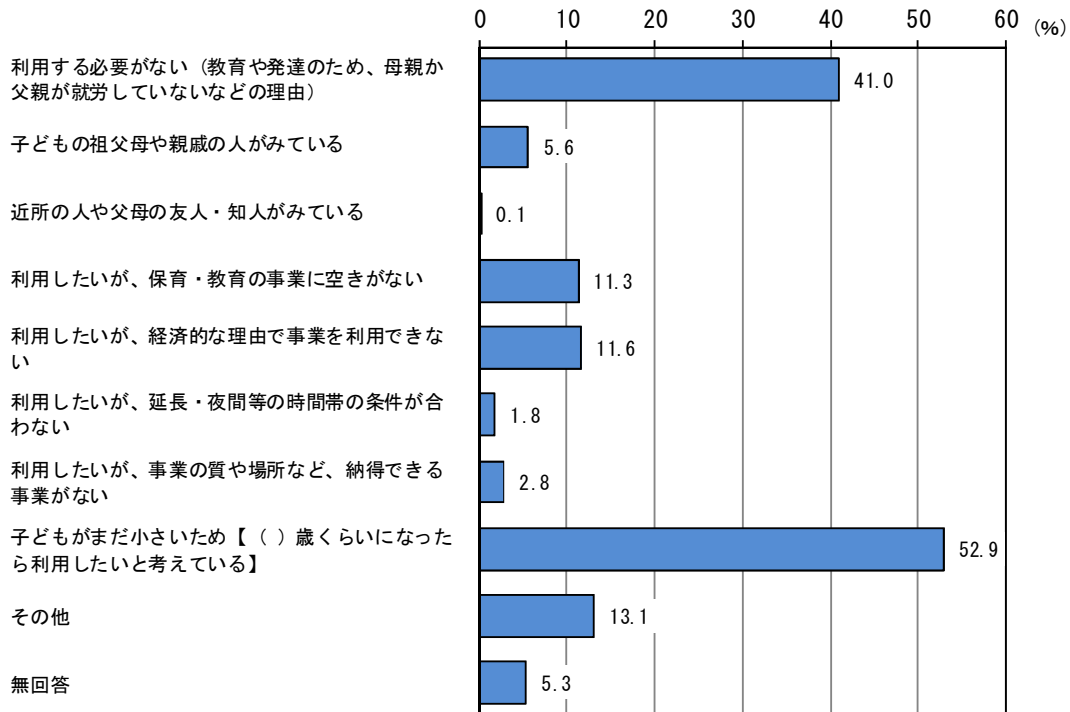
長期休業中の幼稚園の事業の利用希望について

「休みの期間中、週に数日利用したい」が46.4%と最も高く、次いで「利用する必要はない」が30.2%である。



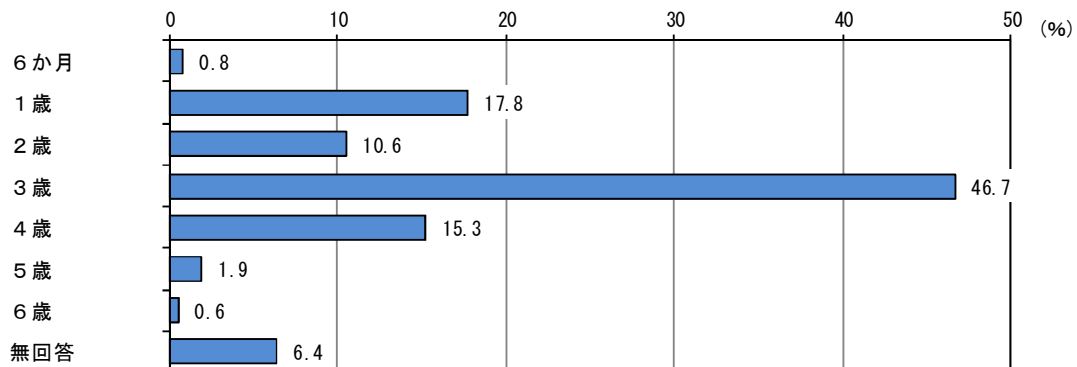
教育・保育事業を利用していない理由（複数回答）

「子どもがまだ小さいため【（ ）歳くらいになったら利用したいと考えている】」が52.9%と最も高く、次いで「利用する必要がない（教育や発達のため、母親か父親が就労していないなどの理由）」が41.0%である。



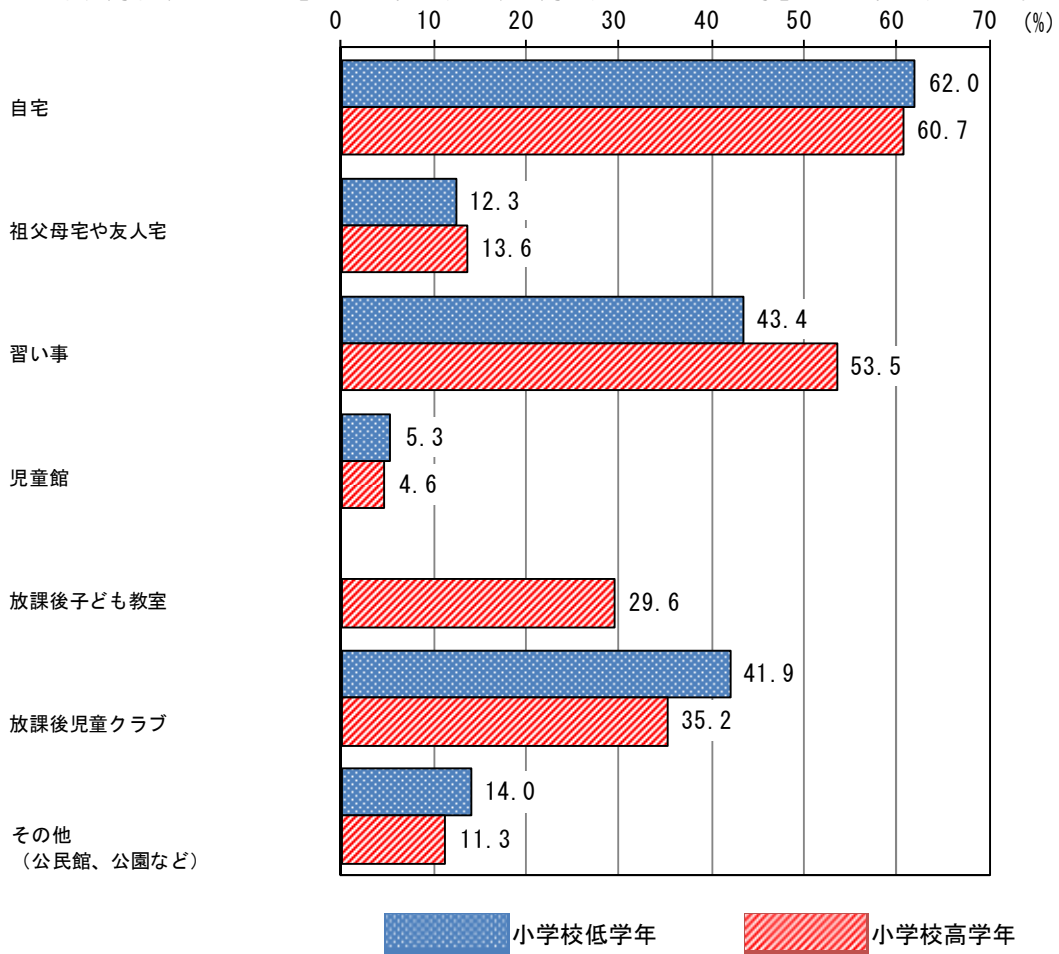
■ 定期的な教育・保育の事業の利用を希望する子どもの年齢について

「子どもがまだ小さいため【（ ）歳くらいになったら利用したいと考えている】」では、「3歳」が46.7%と最も高く、次いで「1歳」が17.8%、「4歳」が15.3%と続く。



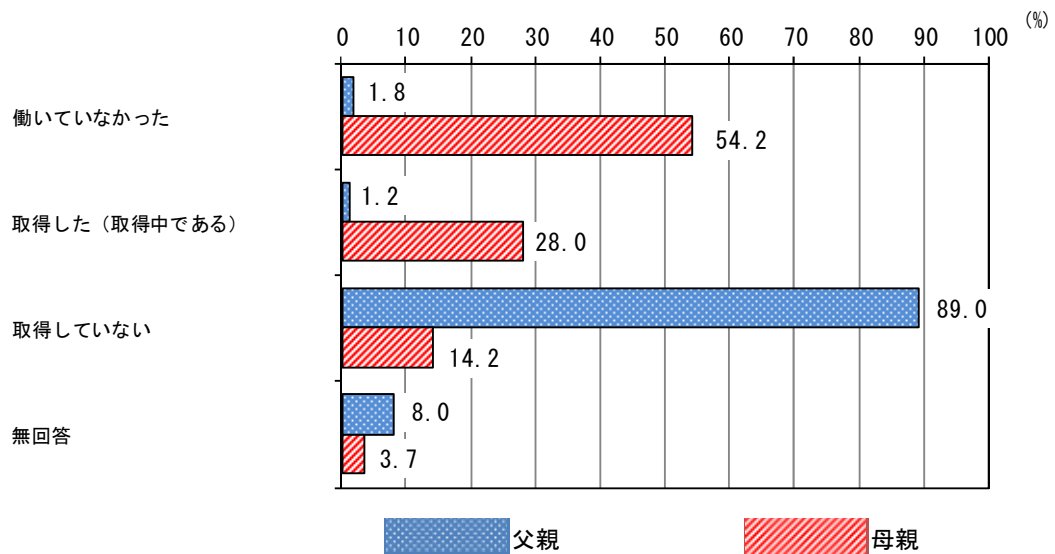
小学校就学後の放課後の過ごさせたい場所について（複数回答）

小学校低学年では「自宅」が62.0%と最も高く、次いで「習い事」が43.4%である。
 小学校高学年では「自宅」が60.7%と最も高く、次いで「習い事」が53.5%である。



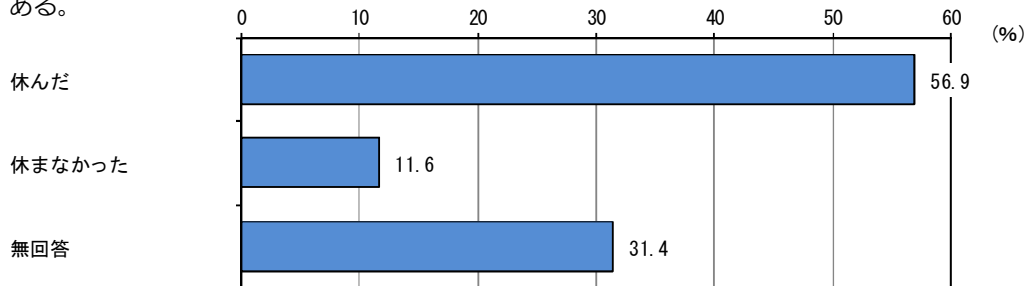
誕生時の父母の育児休業取得の有無

父親は「取得していない」が89.0%で、「働いていなかった」が1.8%、「取得した（取得中である）」は、1.2%である。



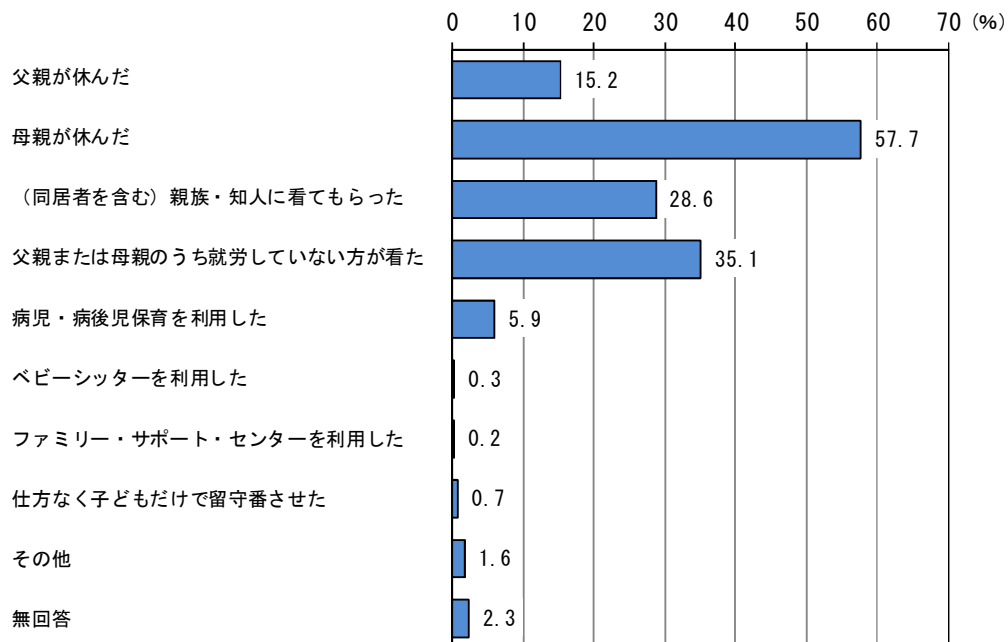
子どもが病気やケガで休んだ有無について

幼稚園、保育園、小学校などを「休んだ」が56.9%で、「休まなかった」は11.6%である。



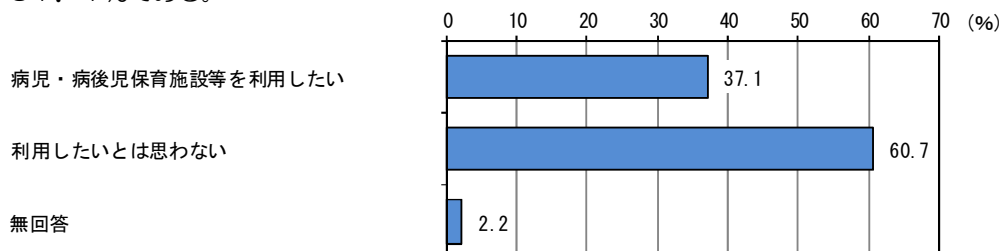
子どもが休んだ時の対処方法について（複数回答）

「母親が休んだ」が57.7%と最も高く、次いで「父親または母親のうち就労していない方が見た」が35.1%、「（同居者を含む）親族・知人に看てもらった」が28.6%と続き、「父親が休んだ」は15.2%である。



病児・病後児保育の希望について

「利用したいと思わない」が60.7%で、「病児・病後児保育施設等を利用したい」が37.1%である。



地域の子育て支援拠点事業の認知、利用の有無、希望について

認知度として「すこやか子育て交流館（りぼんかん）」が85.7%と最も高く、次いで「親子つどいの広場（なかまっち）」が76.6%、「保健センターの情報・相談事業」が73.6%と続く。

利用度では「すこやか子育て交流館（りぼんかん）」が58.3%と最も高く、次いで「保育所や幼稚園の園庭等の開放」が35.5%、「ふれあい子育てサロンなど」が33.2%である。

今後利用したい施設・事業では、認知度と現在の利用度共に割合の高い「すこやか子育て交流館（りぼんかん）」が66.3%と最も高く、次いで「児童館、地域福祉館の児童ルーム」が54.6%である。

